

「ほんならそれや、切れたら後をチャンと仕込んどきなはれ、今日は私が買ひに来るのん極つたあるがな」

「何の其様な事が解りますかいな」

「何ぞ火鉢へ燻べて嚏の出る物が無いか」

「そうだな私等胡椒でやつた事は有まへんが子供の時分に居眠つてるのを吃驚さすのんに唐辛を燻べた事がおますせ」

「唐辛で嚏が出るか」

「随分エグイ嚏が出ます」

「ほんなら唐辛の粉二錢がんにお呉れ」

「妙な買物に来る人やな、唐辛の粉二錢やそこら買ふのにからくり一段やつて、貴郎今時のお方やおまへんで、へエ左様なら、負けておますせ」

「大きに二錢此處へ置いときますせ、へエ何誰も御免やす、モウ仕舞ひだすせ……………アハハハハ、清やん」

「オイ清やんやないで、お前と云ふ男は埒まちの明かん人間やな、明い間に行て日がズンブリと暮れて仕舞ふたがな、何をしてたんや」

「ボン／＼云ひないな、私八百屋へ行て胡椒を忘れたんや」

「鈍な男やな、あの位めじろし目標まで教へて有るのに」

「それを思ひ出したが、思ひ出す合間が大抵の事かいな、大閤さんが御座つたら肩を並べ様と云ふ智恵を出したが」

「何なにしたんや」

「忘れた依つてに、ホイ大傳馬町より引出されホイ、先には制札紙幟りホイ罪の次第を書き立てホイ」

「コレ其様な阿呆らしい事をやつたんかいな」

「フム一段やつたんや」

「八百屋の親父さん笑ふてたやろう」

「ウム賞めてたで」

「賞めてたか」

「フム貴郎今時のお方やないと」

「そら賞めてるのやない、それはくさされてるのんやがな、そいで胡椒の粉は有つたんか」

「無いねがな」

「無かつたら何もなれへん早う歸つといでんかいな」